

先輩に 続け



社会のために なる人を目指そう

徳島県保健福祉部業務課長
上岡敏郎 (うえおかとしろう)



私は、昭和59年3月に薬学部を卒業後、徳島県庁に「薬剤師」として採用されました。県立三好病院を皮切りに、県庁各課で約20年勤務の他、保健所、保健環境センター等も経験し、薬系公務員の分野はほぼ網羅しました。今年度から業務課長として勤務をしています。

薬系公務員とは

薬剤師という病院勤務がイメージしやすいでしょうが、公務員は他に薬事、食品衛生、環境衛生分野など勤務内容が多岐にわたっています。本県に百名余りの職員(薬剤師)がいますが、病院以外に約7割勤務しています。業務内容を具体的に言いますと、

薬事行政は医薬品メーカーや薬局・薬店の許認可・監視です。食品や環境分野も同様に、関連企業や店舗の許認可・監視をベースに仕事をしています。それと合わせて医薬品、食品、大気や水質、放射性物質及び感染症関係の、試験検査・研究も行っています。危機管理の点で休日夜間の対応も多く、縁の下力持ちとして、県民の安全安心を下支えしています。

思い出に残ること

まず減多にできない経験として麻薬取締員があります。司法警察員等の研修を通じて、薬物乱用者と接する中で、「止めてやり直すことが出来るだろうか」との声を耳にした時は、薬物の業の深さに身につまされました。

また、保健所勤務では、結果的には大規模感染症となりましたが、どこまで患者が広がるのか、何時原因が判明するのか、業務を行った数日間生きた心地がしませんでした。

環境分野では、大手化学工場の重金属による土壌汚染が判明して以降、関係者が連携して昼夜を問わず対応した結果、付近住民に安心してもらえましたが、記者会見テレビ報道などは、公務員でなければ体験できないことでした。

今思うこと

結局30数年を振り返って見ると、常に「人(県民)の健康の安全・安心をいかに保持するか」ということに関わってきました。

特に徳島県は大手製薬グループが有るだけに、医薬品生産額が常に流暢で、聞き取りやすい発音であったため、普段の生活でも全くストレスなく過ごすことができたとともに、フランス人と日本人との英会話力の違いを明確に感じました。

今回の滞在と交流を通して、日本とフランス間における、仕事に対する取り組み方の違いが最も印象深く記憶に残っています。フランスでは、仕事の優先順位と取捨選択を行うことにより、仕事を短時間で効率よく行っているように感じました。また、毎日の少し長めの昼休憩や週末、長期休暇にはきっちり休み(遊び)、完全にリフレッシュしてから仕事に取り掛かることも、集中して仕事を行う上で重要であると知り、このように物事にメリハリをつけて行うというのを、自身の今後の活動に活かしていきたいと考えるようになりました。

最後に、今回このような海外の大学で研究する機会を与えてくださった、指導教員の安井武史教授、ボルドー大学のEmmanuel Abraham教授、および共同で実験を行っていたClément Trovato君をはじめとする研究室メンバーの皆様、この場を借り深く御礼申し上げます。

ボルドー大学に 滞在して

大学院先端技術科学教育部 博士後期課程
平成29年3月修了

長谷栄治 (はせえいじ)



来日したClément君(左)と筆者(右)

僕は、2015年12月7日から12月22日までの約2週間、フランス国立科学研究センター(CNRS)の国際科学研究交流プロジェクト(Projet International de Coopération Scientifique)の一環として、フランスのボルドー大学物質波動研究所(Université de Bordeaux, Laboratoire Ondes et Matière d'Aquitaine)にて、共同研究を行



海外
体験記



構築した実験装置



新築のヌーヴォースタッド・ド・ボルドーにてサッカー観戦



ボルドーのシンボル「水の鏡」